

いちばん、人を考える会社になる。

**第一生命**

---

# 2012年3月期 第2四半期決算報告

2011年11月14日  
第一生命保険株式会社

---

## ■ 第一生命グループ各社の営業業績は堅調に推移

第一生命・第一フロンティア生命いずれも新契約年換算保険料は前年同期比プラス成長を達成。オーストラリアやベトナムの海外連結子会社でも、保険の販売は高水準の伸び

## ■ 金融環境の悪化に伴う影響が顕在化

金融資本市場が大幅に調整した影響を受け、第一生命において有価証券評価損851億円を計上。第一フロンティア生命では最低保証に係る責任準備金の繰入額が高水準

## ■ 健全性の強化に向けた取組が着実に進捗

国内株式の圧縮・超長期国債の積み増し策を進めた結果、ソルベンシー・マージン比率は厳しくなった新基準において改善を見せ、有価証券含み益も拡大

## 第一生命

## 連結主要業績

- 第一生命グループ各社の保険販売が堅調に推移したことに加え、オーストラリアTAL社の連結化効果等により、経常収益は前年同期比9%増
- 厳しい金融環境の下、第一生命で有価証券評価損、第一フロンティア生命では最低保証リスクに係る責任準備金繰入額が拡大し、経常利益は同40%減。大井事業所譲渡に伴う特別損失を計上したこともあり、当期純利益は同58%減

(億円)

	11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計(a)	前年同期比	
経常収益	22,626	24,697	+2,070	+9%
第一生命単体	20,943	22,483	+1,539	+7%
経常利益	1,010	604	406	40%
第一生命単体	1,062	761	300	28%
当期純利益	294	123	170	58%
第一生命単体	341	61	279	82%

&lt;参考&gt;

12/3期 業績予想(b)	進捗率(a/b)
43,340	57%
38,280	59%
1,680	36%
1,780	43%
370	33%
320	19%

## 連結損益計算書・連結貸借対照表(要約)

連結損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>

	11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計	増減
経常収益	22,626	24,697	+2,070
保険料等収入	16,651	18,076	+1,424
資産運用収益	4,580	5,062	+482
うち利息・配当金等収入	3,382	3,439	+57
うち有価証券売却益	1,017	1,464	+446
うち金融派生商品収益	148	41	107
その他経常収益	1,394	1,558	+164
経常費用	21,615	24,093	+2,477
うち保険金等支払金	12,638	13,045	+407
うち責任準備金等繰入額	2,722	3,055	+333
うち資産運用費用	2,070	3,437	+1,367
うち有価証券売却損	618	569	48
うち有価証券評価損	68	851	+782
うち特別勘定資産運用損	937	1,358	+421
うち事業費	2,158	2,289	+130
経常利益	1,010	604	406
特別利益	38	235	+197
特別損失	144	300	+155
契約者配当準備金繰入額	412	347	64
税金等調整前中間純利益	492	191	300
法人税等合計	204	89	114
少数株主利益(は損失)	6	21	15
中間純利益	294	123	170

## 連結貸借対照表(要約)

	11/3末	11/9末	増減
資産の部合計	322,978	326,242	+3,264
うち現預金・コール	5,019	5,477	+458
うち買入金銭債権	2,911	2,914	+3
うち有価証券	255,977	257,919	+1,941
うち貸付金	36,279	34,554	1,724
うち有形固定資産	12,961	12,624	336
うち繰延税金資産	4,772	4,871	+99
負債の部合計	315,660	319,615	+3,954
うち保険契約準備金	296,419	300,780	+4,360
うち責任準備金	290,394	294,408	+4,013
うち退職給付引当金	4,200	4,326	+126
うち価格変動準備金	805	806	+0
純資産の部合計	7,318	6,627	690
うち株主資本合計	5,489	5,632	+143
うちその他の包括利益累計額合計	1,711	896	815
うちその他有価証券評価差額金	2,388	1,976	412
うち土地再評価差額金	651	816	164

(1) 特別勘定資産運用損は、責任準備金の戻入で相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

## グループ各社の業績

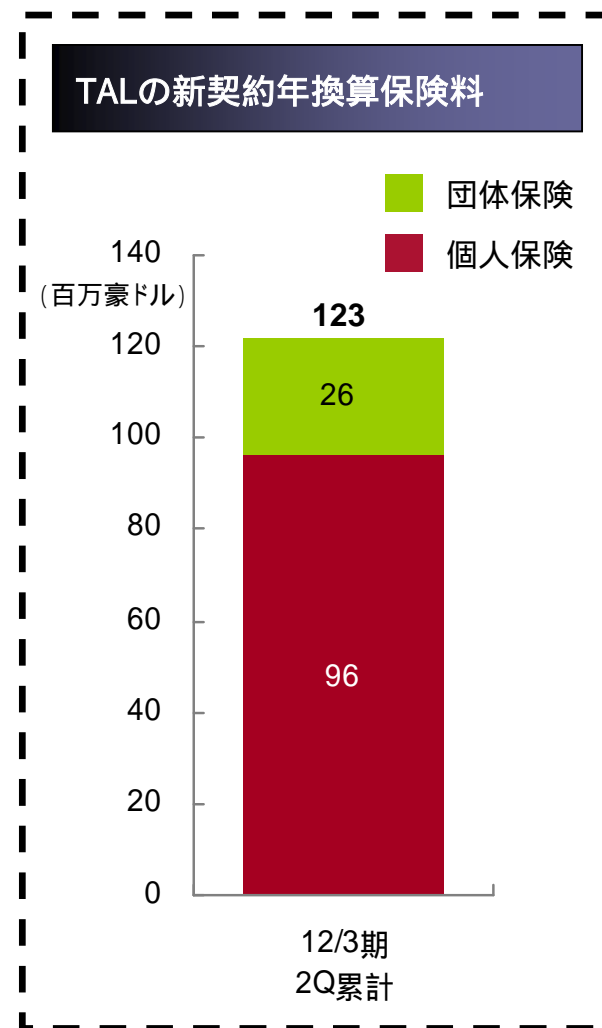
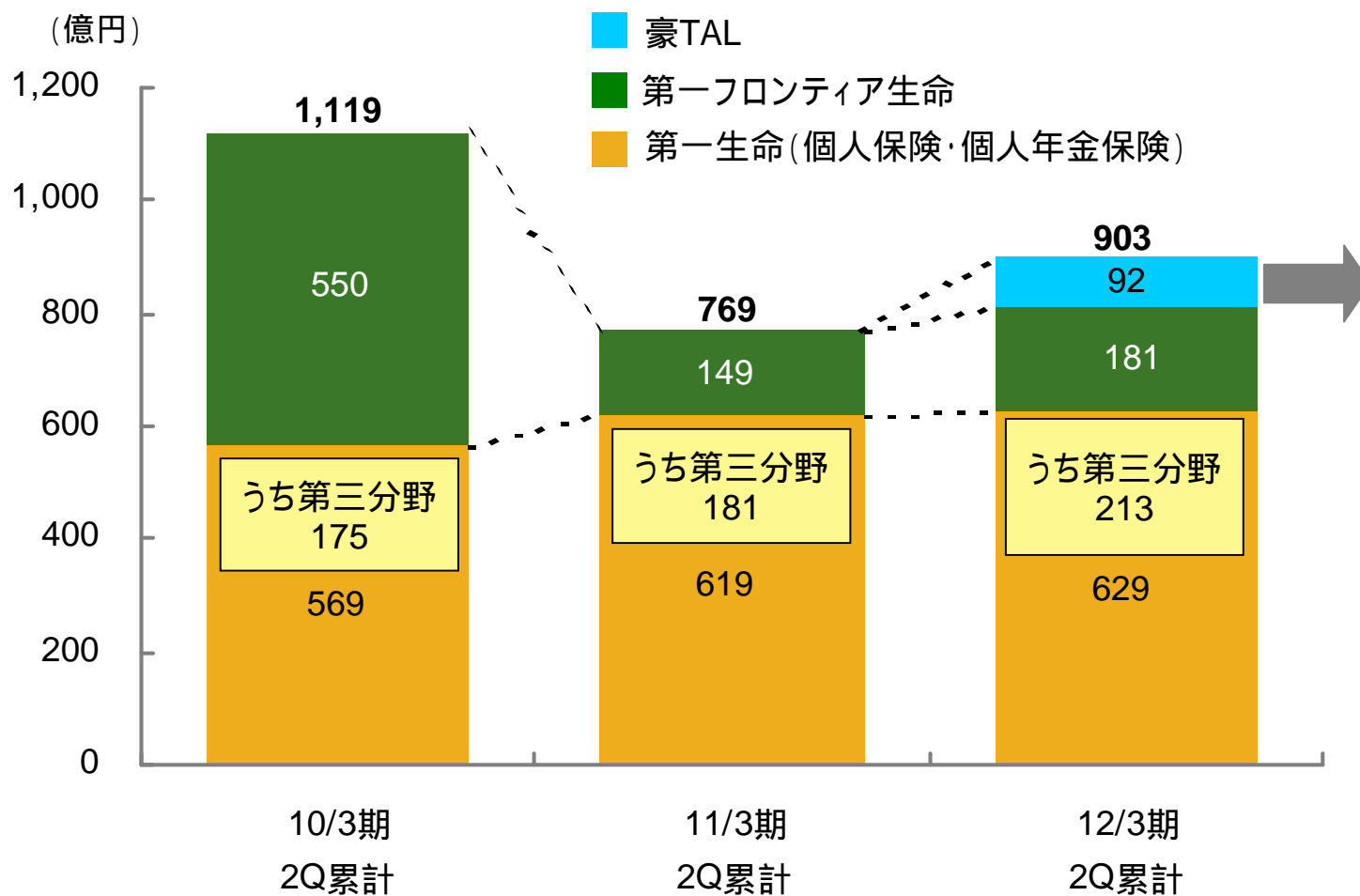
	【第一生命】				【第一フロンティア生命】				【豪TAL】 <sup>(1)</sup>				【連結】			
	(億円)				(億円)				(百万豪ドル)				(億円)			
	11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計	前年同期比		11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計	前年同期比		11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計	前年同期比		11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計	前年同期比	
経常収益	20,943	22,483	+1,539	+7%	1,666	1,678	+11	+1%	829	1,095	+266	+32%	22,626	24,697	+2,070	+9%
保険料等収入	15,017	16,000	+982	+7%	1,616	1,485	130	8%	653	818	+165	+25%	16,651	18,076	+1,424	+9%
資産運用収益	4,563	4,923	+359	+8%	50	192	+142	+281%	23	13	10	44%	4,580	5,062	+482	+11%
経常費用	19,881	21,722	+1,840	+9%	1,731	1,898	+166	+10%	725	994	+268	+37%	21,615	24,093	+2,477	+11%
保険金等支払金	12,236	12,212	24	0%	396	457	+60	+15%	423	550	+127	+30%	12,638	13,045	+407	+3%
責任準備金等繰入額	1,635	2,385	+750	+46%	1,081	836	244	23%	69	72	+2	+4%	2,722	3,055	+333	+12%
資産運用費用	1,908	2,879	+970	+51%	187	529	+342	+183%	10	106	+95	+919%	2,070	3,437	+1,367	+66%
事業費	2,102	2,035	67	3%	61	70	+9	+15%	192	227	+35	+18%	2,158	2,289	+130	+6%
経常損益	1,062	761	300	28%	64	220	155	--	103	101	2	2%	1,010	604	406	40%
特別利益	38	4	34	88%	3	--	3	--	--	--	--	--	38	235	+197	+511%
特別損失	144	296	+152	+105%	0	0	+0	+177%	--	2	+2	--	144	300	+155	+108%
少数株主損失	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	6	21	15	+243%
中間純損益	341	61	279	82%	61	220	159	--	59	63	+4	+7%	294	123	170	58%

(1) 11/3期において、Tower Australia Group Limited(以下、Tower社)は当社が28.9%の株式を保有する持分法適用関連会社でした。当社は、2011年5月11日付で当社未保有のTower社株式の全株取得を行いました。2011年6月1日付でTower社は会社名をTAL Limitedに変更しています。なお、表中でTALと表示している12/3期2Q累計の損益は、連結対象の豪持株会社に係る数値です。また、11/3期2Q累計の損益は、試算値です

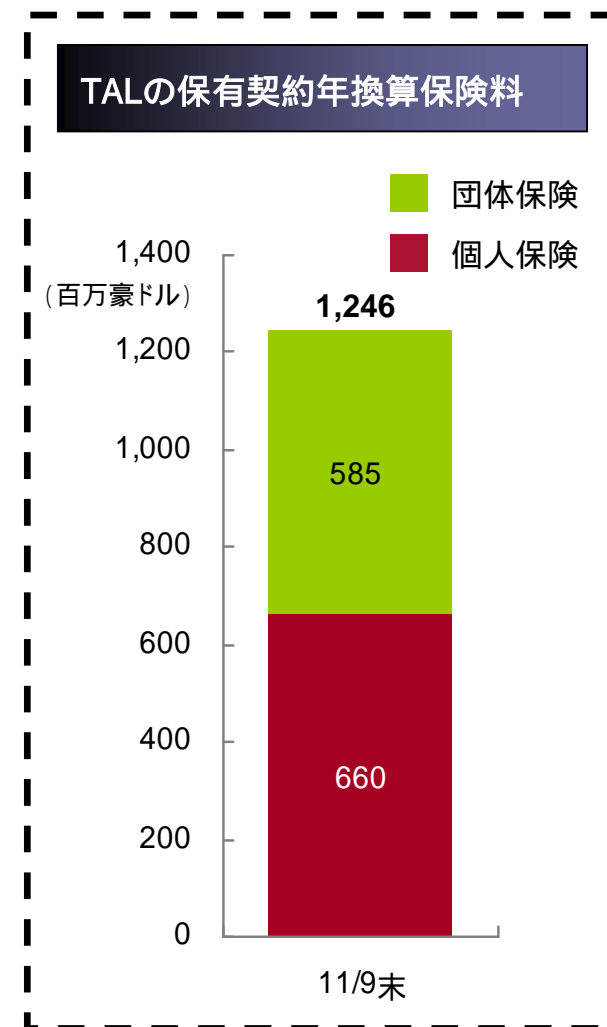
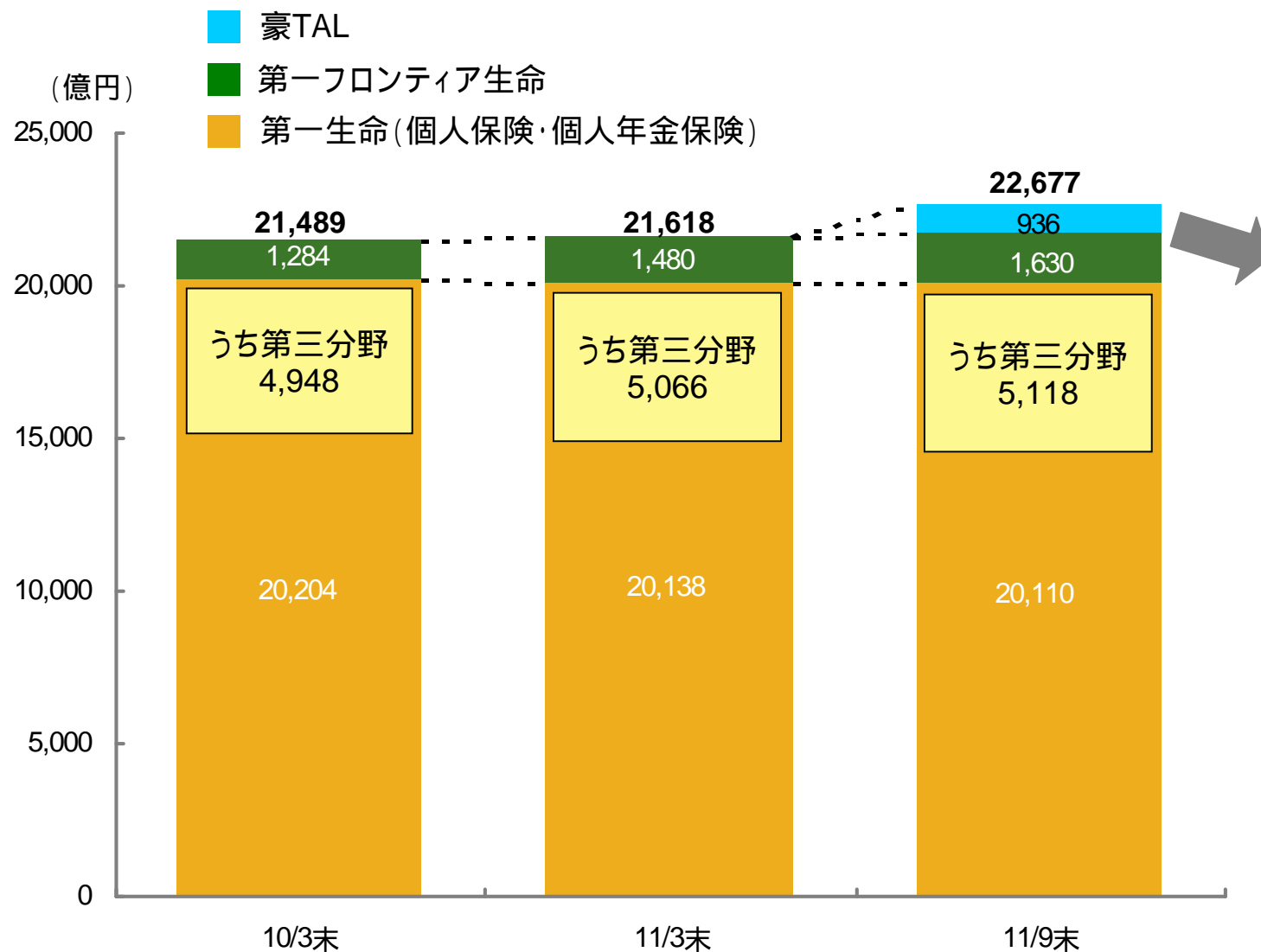
第一生命

新契約動向(年換算保険料ベース)

第一生命グループの新契約年換算保険料

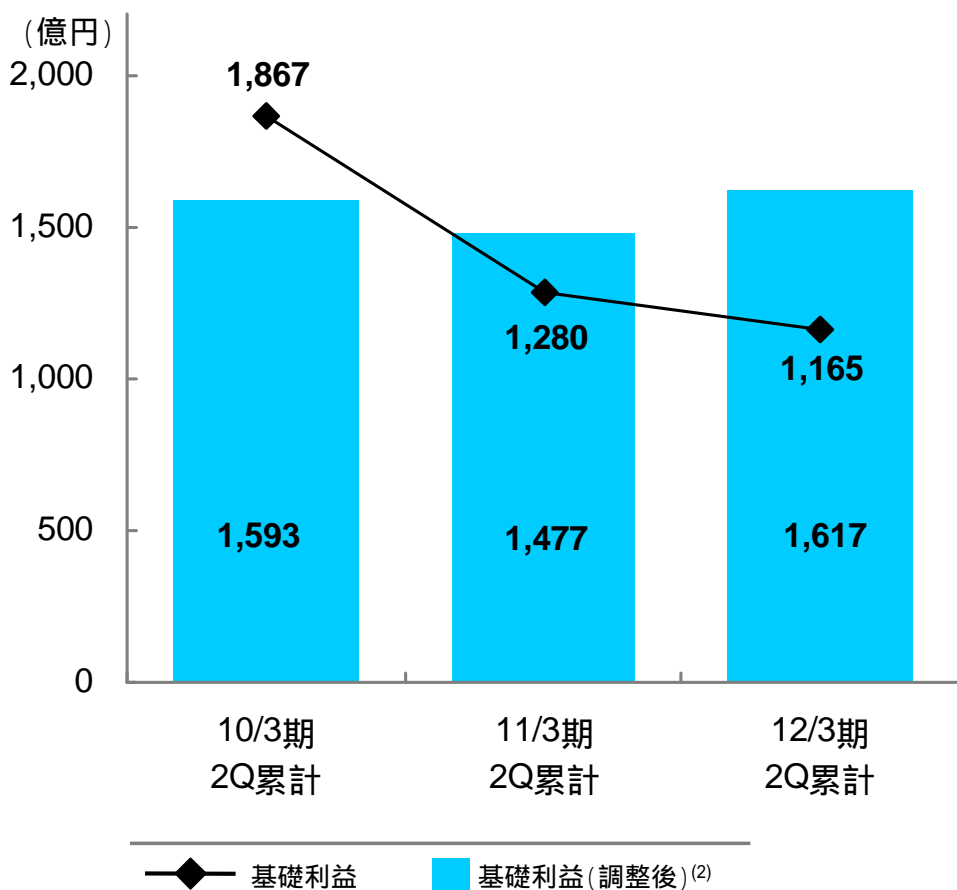


第一生命グループの保有契約年換算保険料

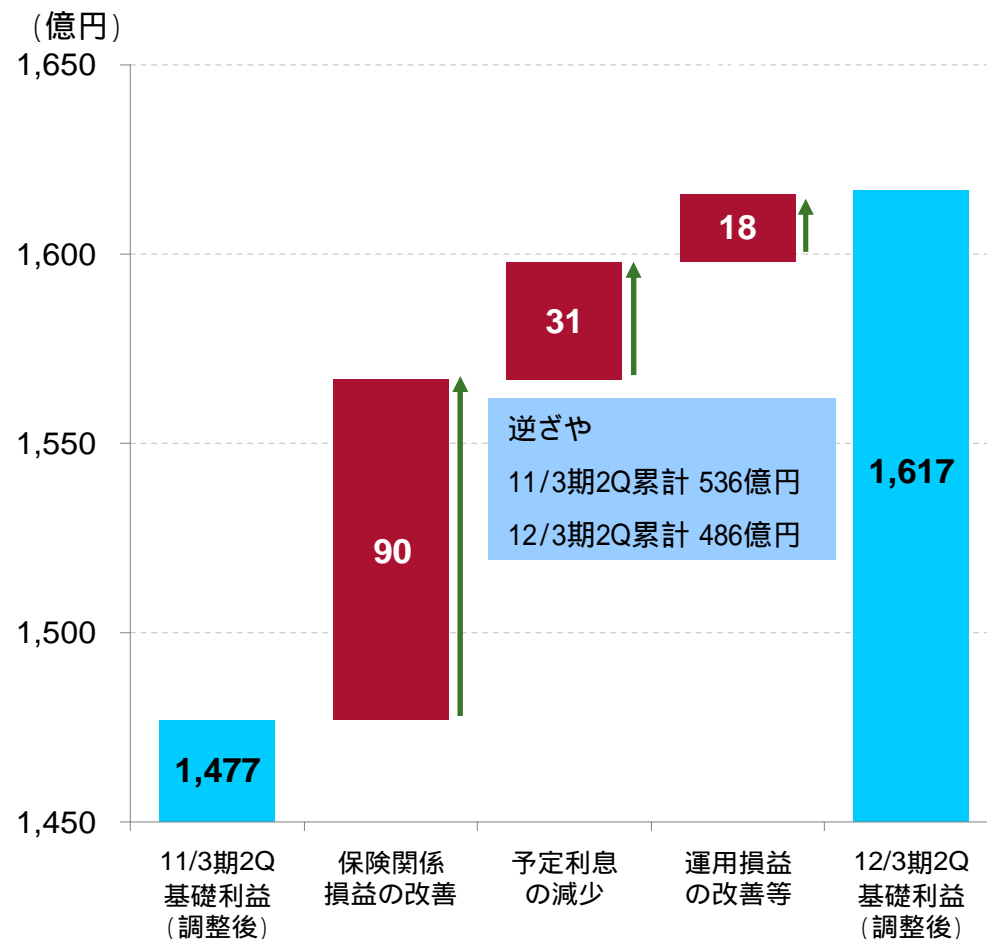


基礎利益の状況

基礎利益<sup>(1)</sup>



基礎利益(調整後)の変動要因<sup>(1)(2)</sup>

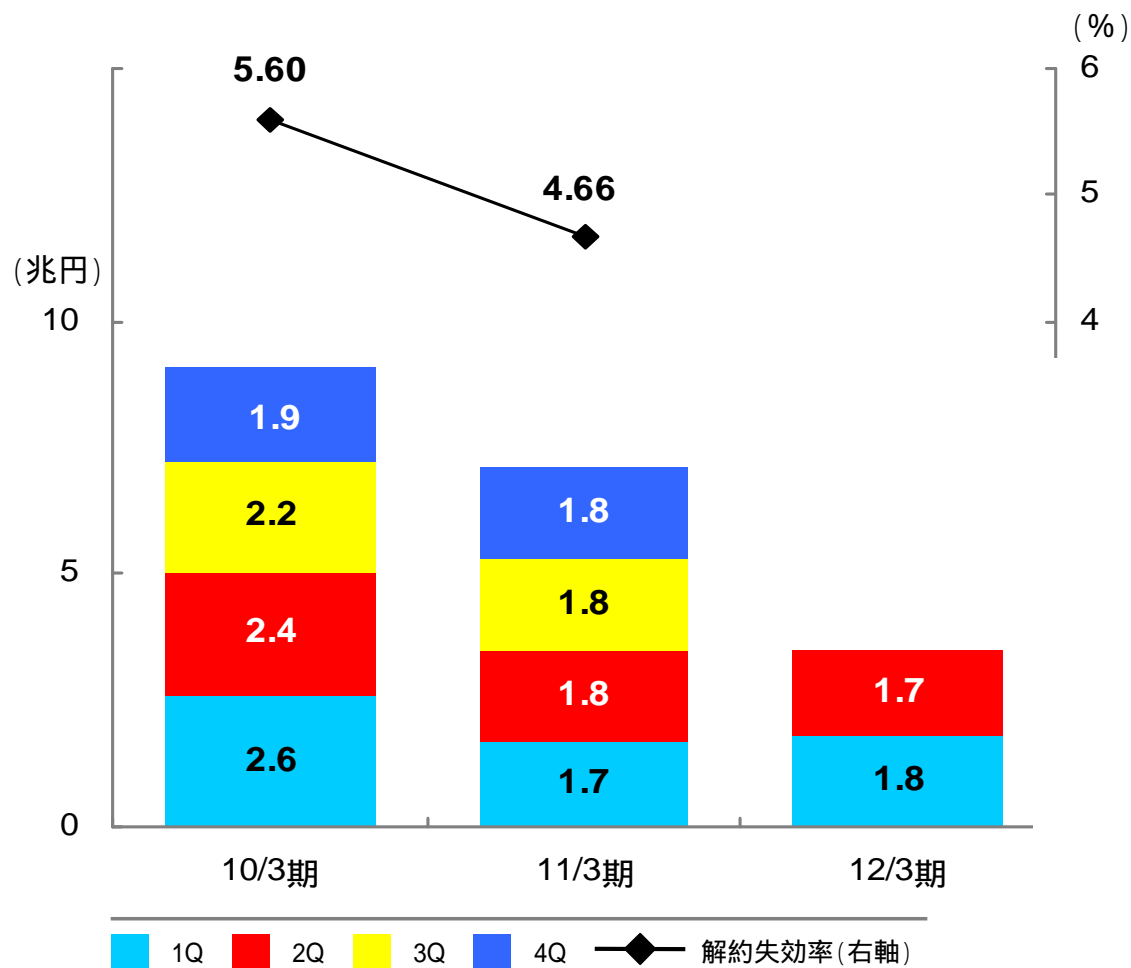


(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース  
 (2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 + 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額

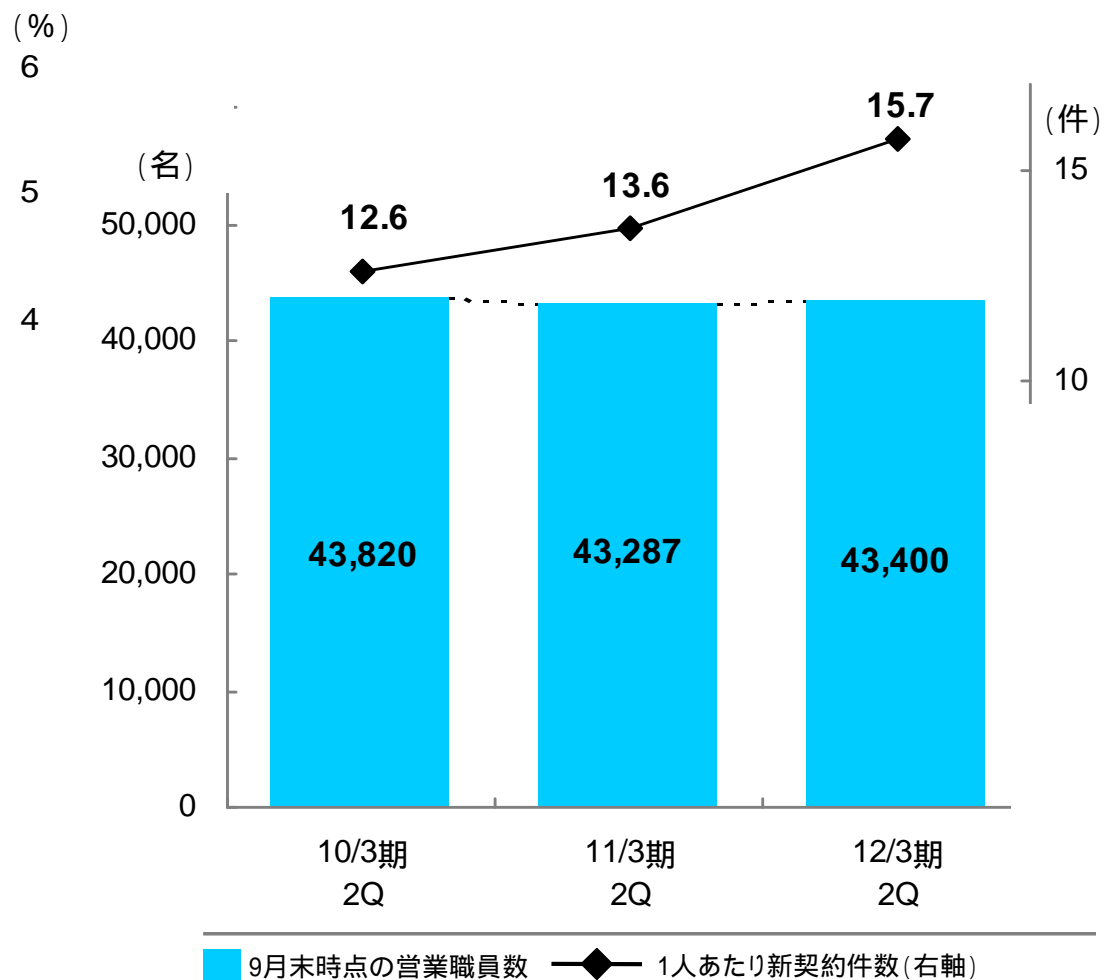


解約失効高、営業職員数および生産性

解約失効高(個人保険・個人年金保険)



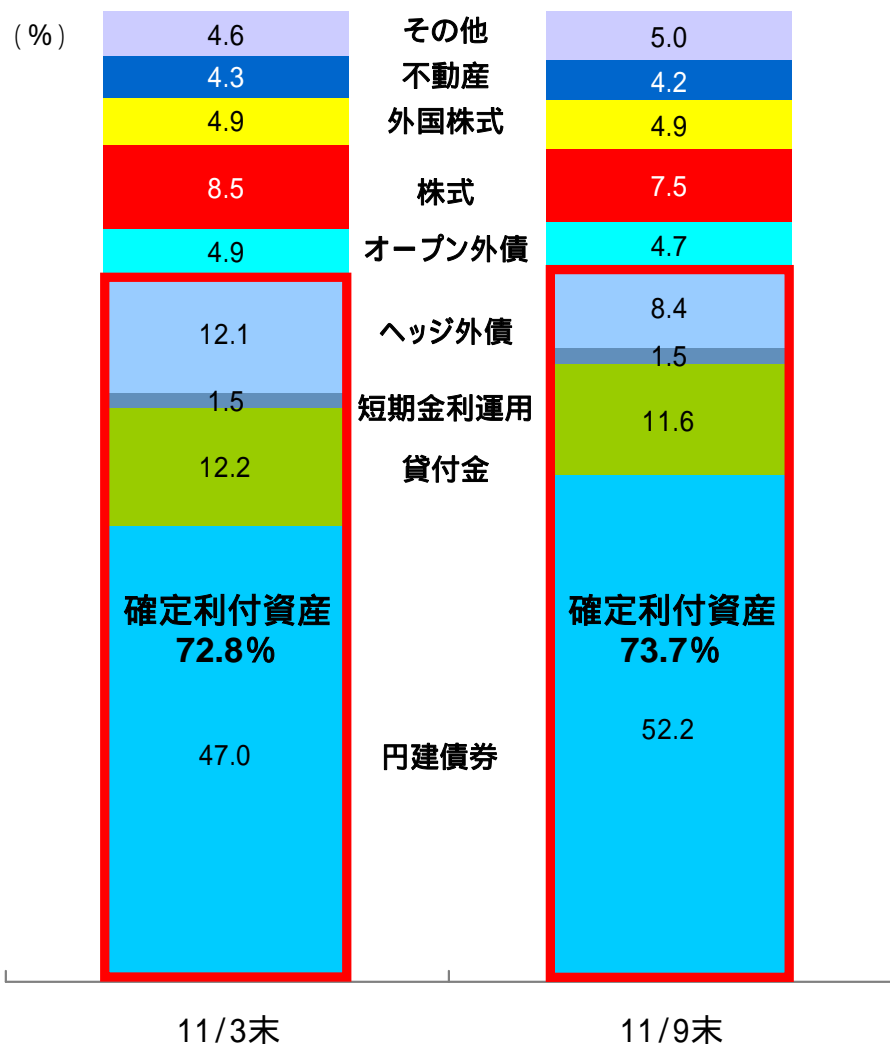
営業職員数および生産性<sup>(1)</sup>



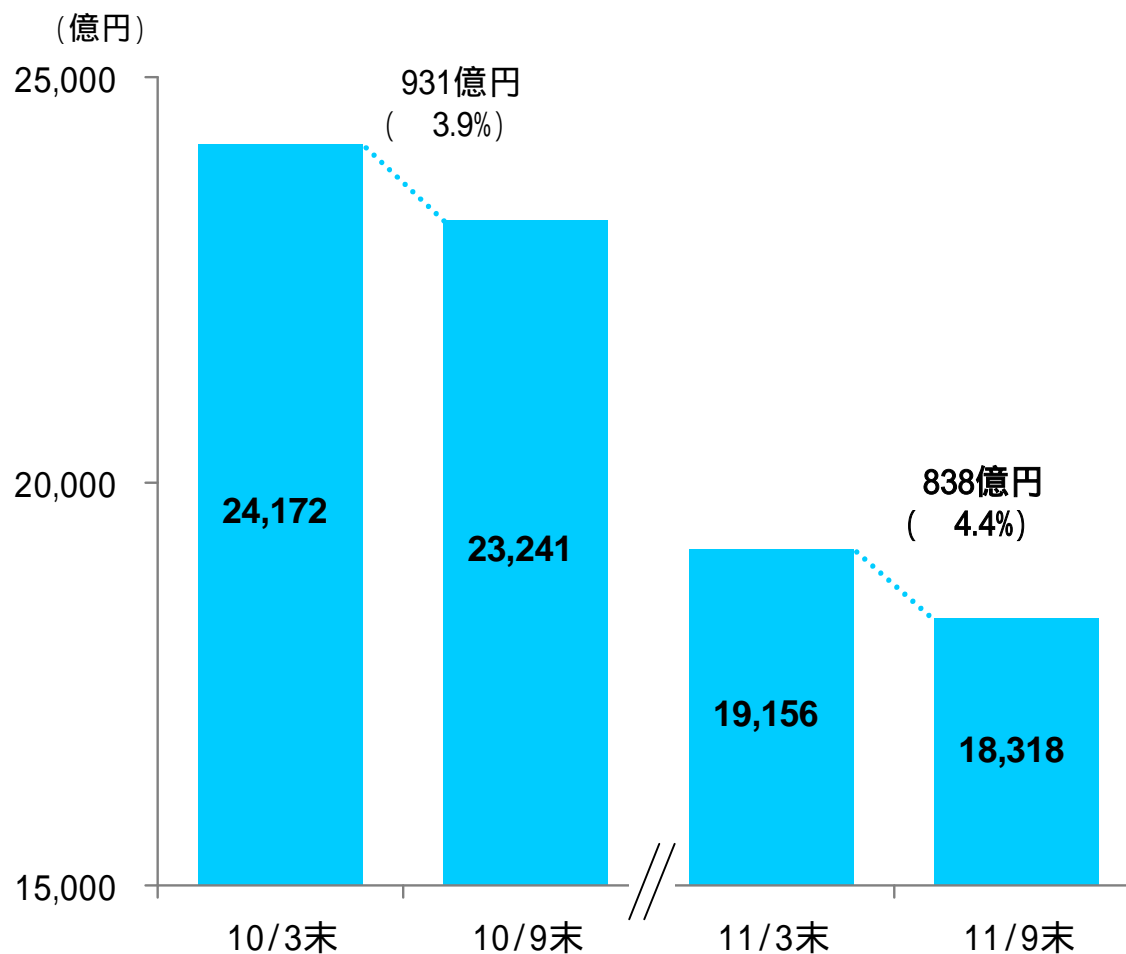
(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております

一般勘定資産運用の状況(1)

資産の構成(一般勘定)



国内株式の簿価(1)



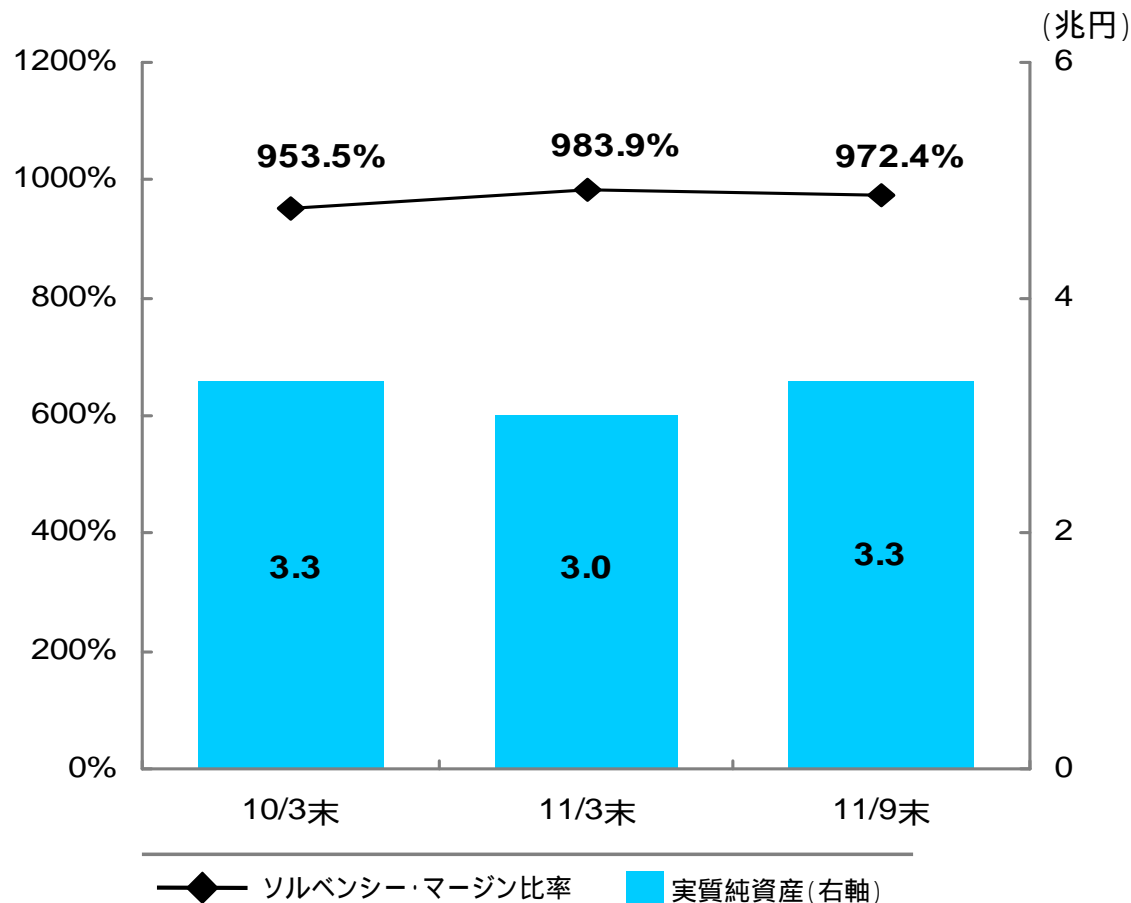
(1) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

含み損益(一般勘定)

(億円)

	11/3末	11/9末	増減
有価証券	6,141	8,367	+2,226
国内債券	3,838	8,143	+4,304
国内株式	3,056	1,072	1,984
外国証券	804	885	80
不動産	205	107	97
その他共計	6,392	8,495	+2,103

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



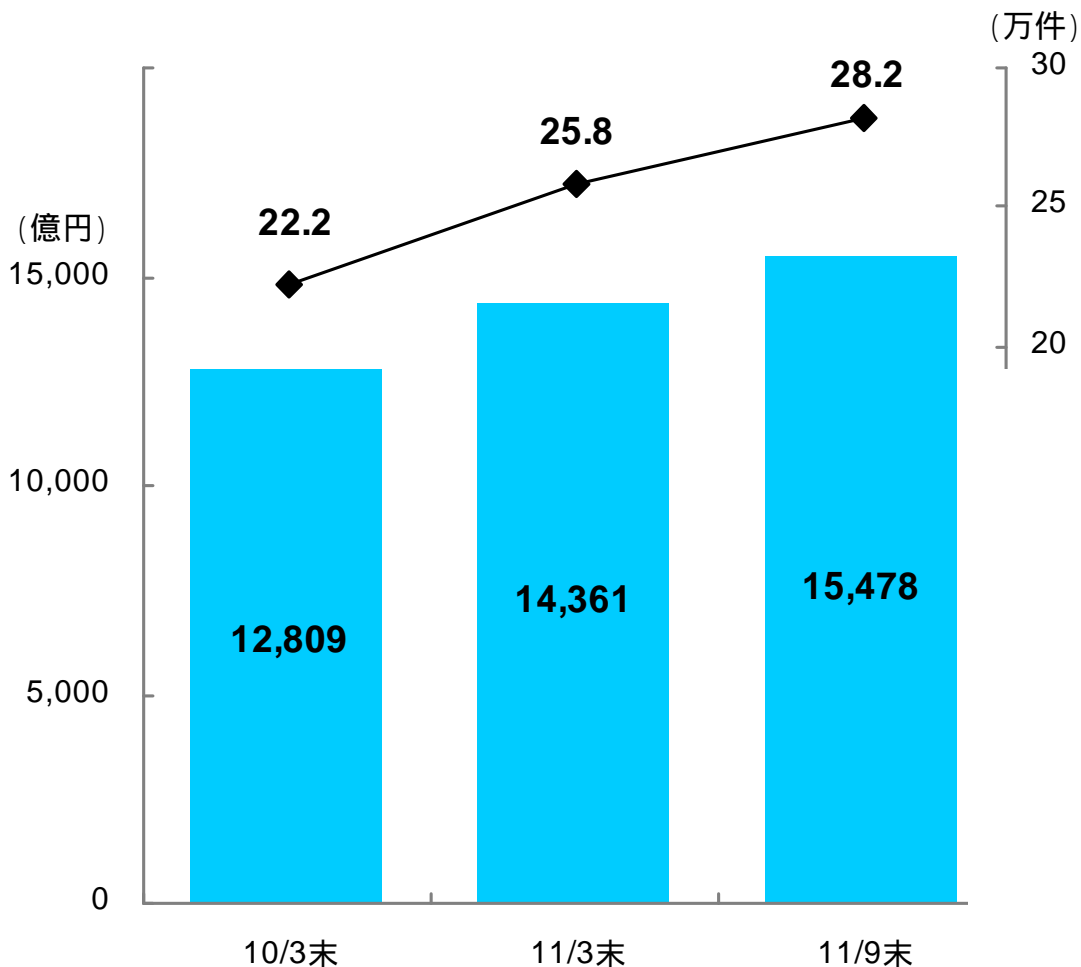
<参考> 2012年3月期末より導入される  
新基準に基づくソルベンシー・マージン比率

547.7%	559.9%
(11/3末)	(11/9末)

**第一生命**

**第一フロンティア生命**

**保有契約高**



■ 金額    ◆ 件数(右軸)

**収支の状況**

	(億円)	
	11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計
経常収益	1,666	1,678
うち保険料等収入	1,616	1,485
うち変額商品	1,236	388
うち定額商品	147	884
うち資産運用収益	50	192
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	39	170
経常費用	1,731	1,898
うち責任準備金等繰入額	1,081	836
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(は戻入)(B)	184	441
うち危険準備金繰入額(C)	10	16
うち資産運用費用	187	529
経常利益(は損失)	64	220
中間純利益(は損失)	61	220
中間純利益 - (A) + (B) + (C)	94	65

## 第一生命

豪TAL収支の状況<sup>(1)</sup>

(百万豪ドル)

	10年4～9月 <sup>(2)</sup>	11年4～9月	前年同期比
経常収益	829	1,095	+32%
うち保険料等収入	653	818	+25%
経常利益	103	101	2%
中間純利益(A)	59	63	+7%
修正額(B)	6	10	
うち負債割引率の変化	10	20	
うち償却負担	8	11	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	52	52	+1%

## &lt;参考&gt;

	10/9末	11/3末	11/9末
為替レート(豪ドル)	81.45円	86.08円	75.17円

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

(2) 試算値

# 第一生命

## 2012年3月期業績予想(期初予想から変更なし)

- 当期純利益の進捗率は低水準だが、下半期もグループ各社の営業業績は堅調に推移すると予想されることや、資産運用収支も改善が期待されることなどを考慮し、通期の業績予想は据え置き

(億円)

	11/3期	12/3期(予)	増減
<b>経常収益</b>	<b>45,715</b>	<b>43,340</b>	<b>2,375</b>
第一生命単体	43,084	38,280	4,804
第一フロンティア	2,538	4,210	+1,671
<b>経常利益</b>	<b>811</b>	<b>1,680</b>	<b>+868</b>
第一生命単体	789	1,780	+990
第一フロンティア	11	190	178
<b>当期純利益</b>	<b>191</b>	<b>370</b>	<b>+178</b>
第一生命単体	169	320	+150
第一フロンティア <sup>(1)</sup>	8	171	162
<b>1株当たり配当金</b>	<b>1,600円</b>	<b>1,600円</b>	<b>±0</b>

(参考)

基礎利益 (第一生命単体)	2,759	2,700程度
------------------	-------	---------

(1) 持分考慮後

# 第一生命

## ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー

- 主に長期金利の低下により、3月末比2,047億円減少し、2兆2,355億円

### 第一生命グループのEEV

(億円)

	11/3末	11/9末	増減
EEV	24,403	22,355	2,047
修正純資産	14,542	15,959	1,416
保有契約価値	9,860	6,395	3,464

	11/3期 上半期	12/3期 上半期	増減
新契約価値	472	694	222

11/3期 年間
1,581

### 第一生命(単体)

(億円)

	11/3末	11/9末	増減
EEV	24,796	23,072	1,724
修正純資産	15,187	17,527	2,339
保有契約価値	9,609	5,545	4,063

	11/3期 上半期	12/3期 上半期	増減	11/3期 年間
新契約価値	475	609	133	1,585

### 第一フロンティア生命

(億円)

	11/3末	11/9末	増減
EEV	1,378	1,235	143
修正純資産	1,099	951	148
保有契約価値	279	283	4

	11/3期 上半期	12/3期 上半期	増減	11/3期 年間
新契約価値	3	13	17	4

# 第一生命

## ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー

TAL (億円)

	11/3末 <sup>(1)</sup>	11/9末 <sup>(1)</sup>	増減
EEV	1,120	1,091	29
修正純資産	496	496	0
保有契約価値	624	595	28

	12/3期 上半期 <sup>(2)</sup>	11/3期 年間 <sup>(2)</sup>
新契約価値	72	139

&lt;参考&gt; TAL(豪ドルベース) (百万豪ドル)

	11/3末	11/9末	増減
EEV	1,302	1,452	150
修正純資産	577	660	83
保有契約価値	724	792	67

	12/3期 上半期	11/3期 年間
新契約価値	96	161

11/3末EEV・11/3期年間の新契約価値：  
11/3末の為替レート(1豪ドル = 86.08円)を使用

11/9末EEV・12/3期上半期の新契約価値：  
11/9末の為替レート(1豪ドル = 75.17円)を使用

- (1) TALについては、11/9末にEEVの計算を開始したため、11/3末のグループEEV算出においてはEEVを使わずに第一生命の保有するTALの株式の時価を算出し、その含み損益を修正純資産に含めています。11/9末においては、TALのEEVをグループEEVに含めています。
- (2) 11/3期のグループの新契約価値には、TALの新契約価値を含みません。12/3期上半期の新契約価値には、TALの新契約価値を含みます。なお、TALの完全子会社化は2011/5/11に完了しましたが、TALの新契約価値の計算においては、2011/4/1から5/10までの新契約価値を含めて計算しています。



いちばん、人を考える会社になる。

**第一生命**

参考データ

## 第一生命

### 東日本大震災の影響

#### ■ 東日本大震災による保険金等の支払見込額

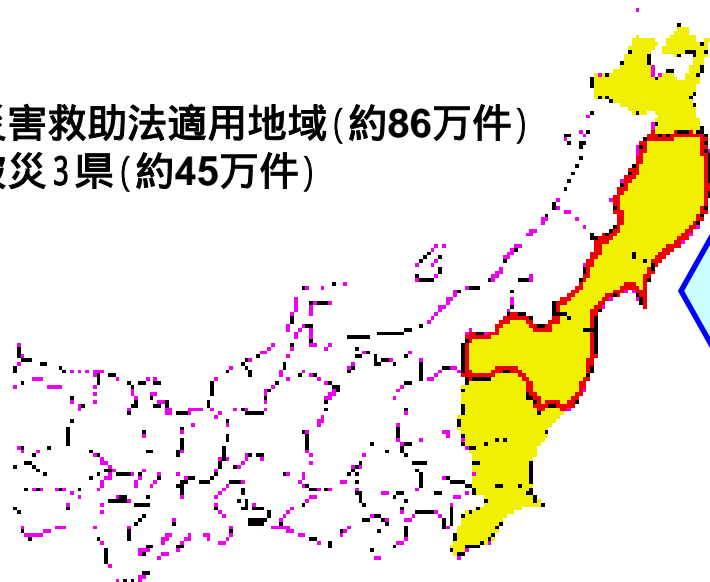
約163億円

安否確認活動により、当社の保有契約の状況が概ね判明。その内容を用いて支払見込額を算出  
9月末迄のお支払済みの金額は累計で126.1億円(うち、4月～9月累計は125.7億円)

#### ■ 保険金お支払いに向けた努力

災害救助法適用地域の当社のご契約(約86万件)のうち、99.96%(11月9日時点)の安否を確認

- 災害救助法適用地域(約86万件)
- 被災3県(約45万件)



安否確認  
(ご自宅、避難所、  
職場、ご家族)

営業職員 (被災3県だけでも約1,500名)

+

現地拠点職員 (被災3県だけでも54営業オフィス)

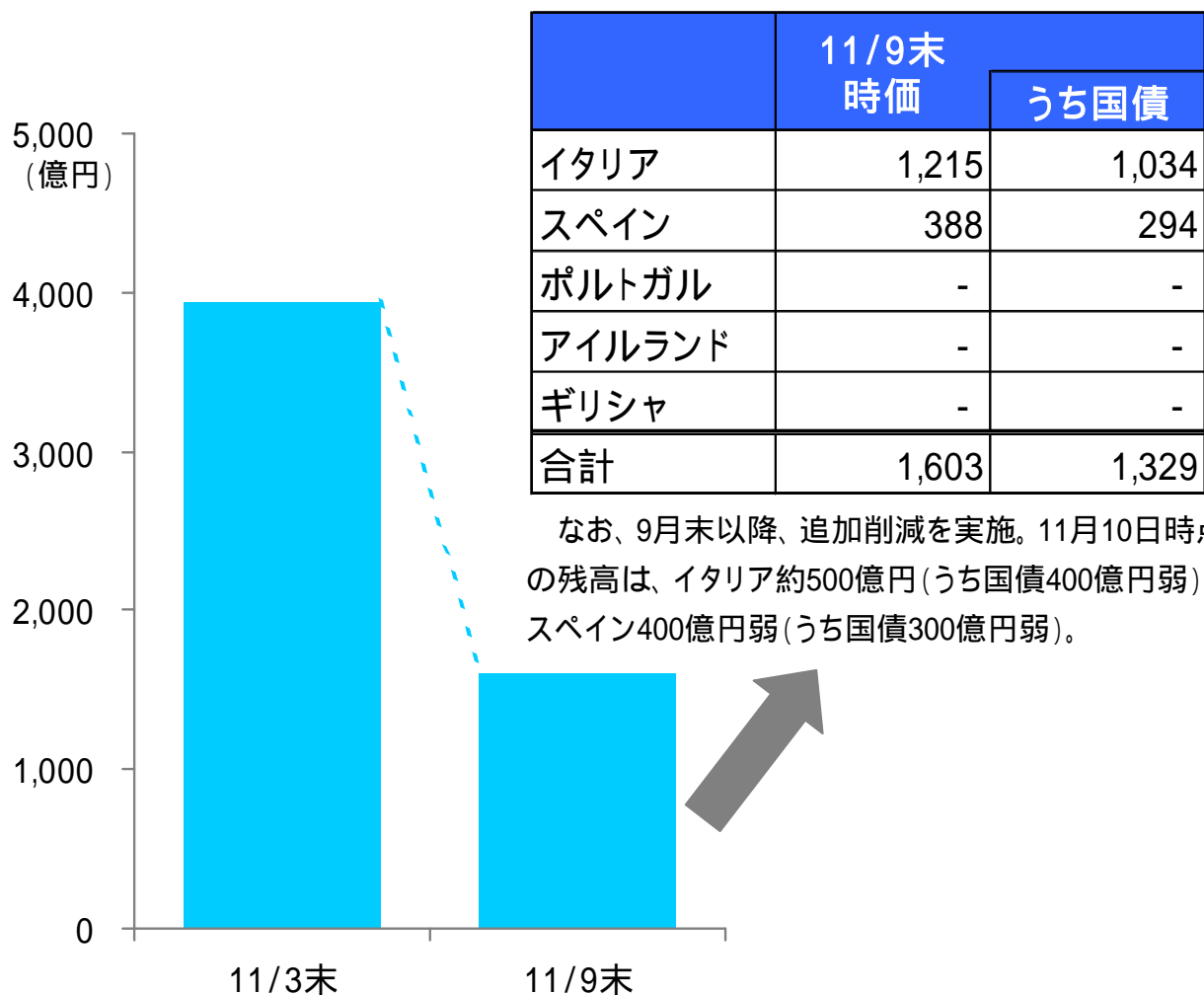
本部派遣職員 のべ177名

コールセンター 76,000コール超

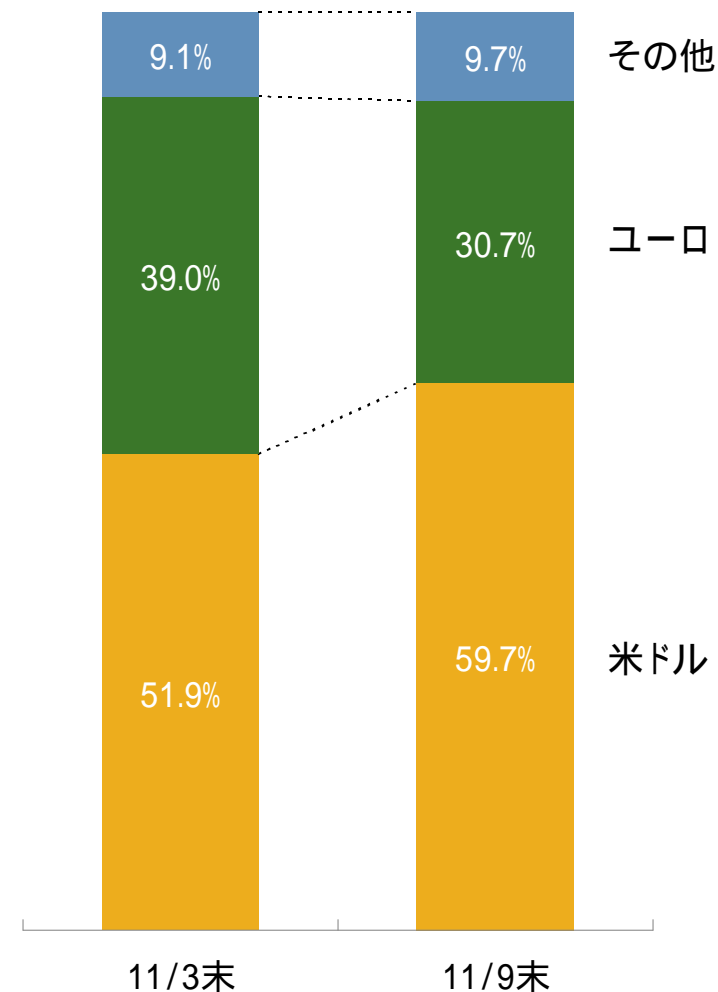
ダイレクトメール 約60万件

一般勘定資産運用の状況(2)

ユーロ圏一部諸国への投資額(時価ベース)<sup>(1)</sup>



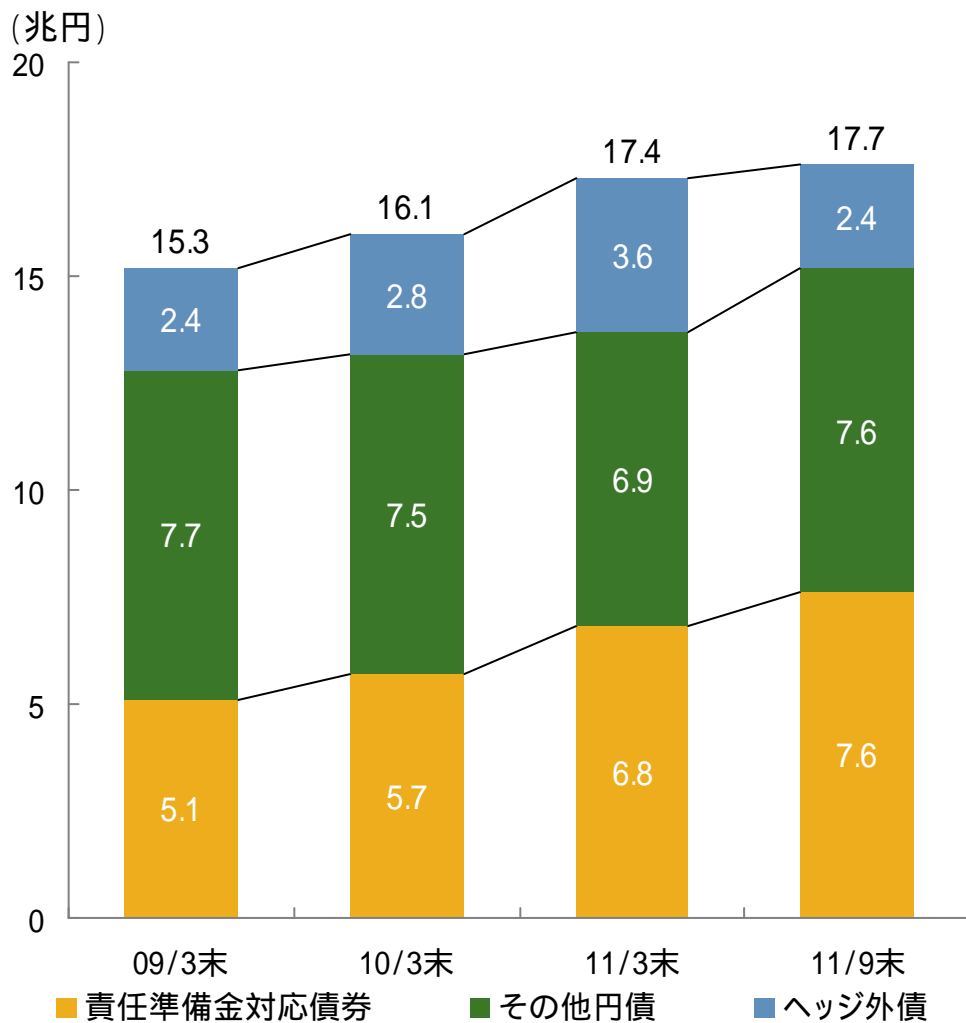
外債の通貨比率<sup>(1)</sup>



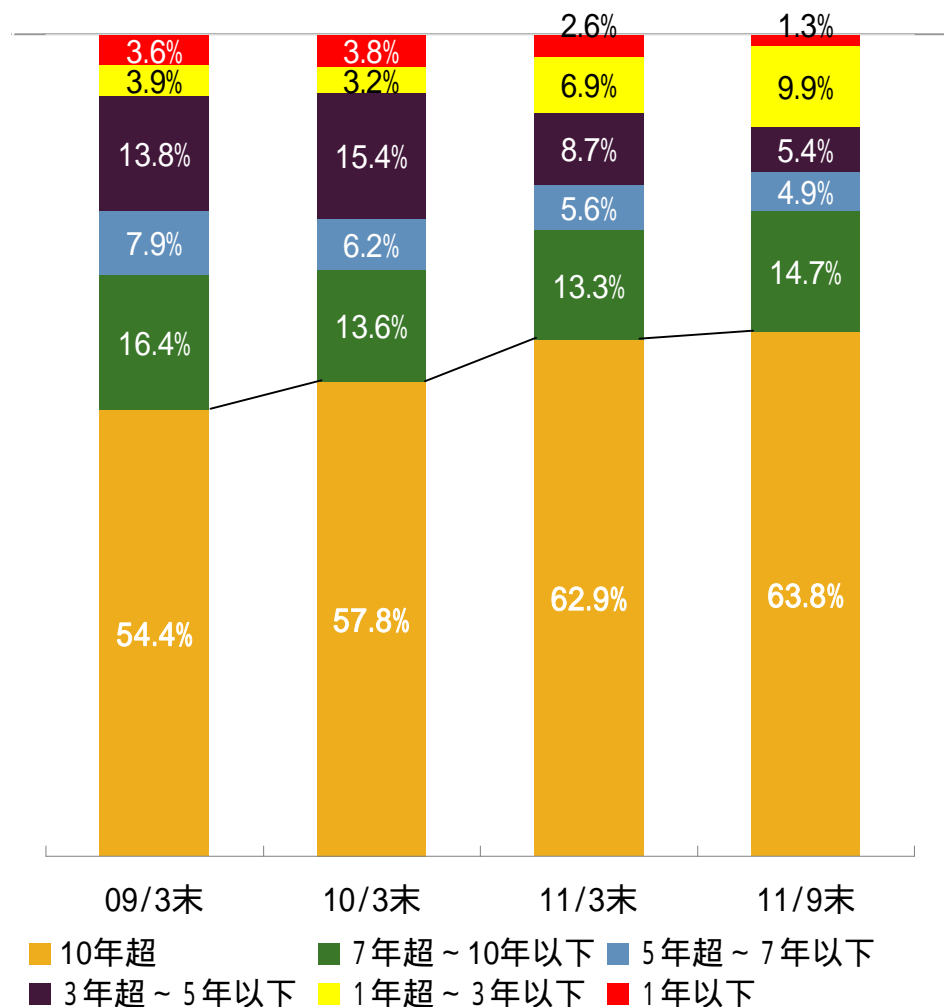
(1) 外部委託運用を除く

一般勘定資産運用の状況(3)

債券の積み増し状況(1)



国内債券の残存期間(2)



(1) 一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象とする。簿価ベース  
 (2) 一般勘定資産のうち国内債券を対象とする。時価ベース

**第一生命**

5つの変革について

- 既存事業分野のビジネスモデル変革を目指し、「5つの変革」に取り組み、固定的費用の効率化、お客さま接点分野の強化等を進めグループの競争力強化を推進。
- 中期経営計画の事業費削減目標とともに、順調に進捗している。

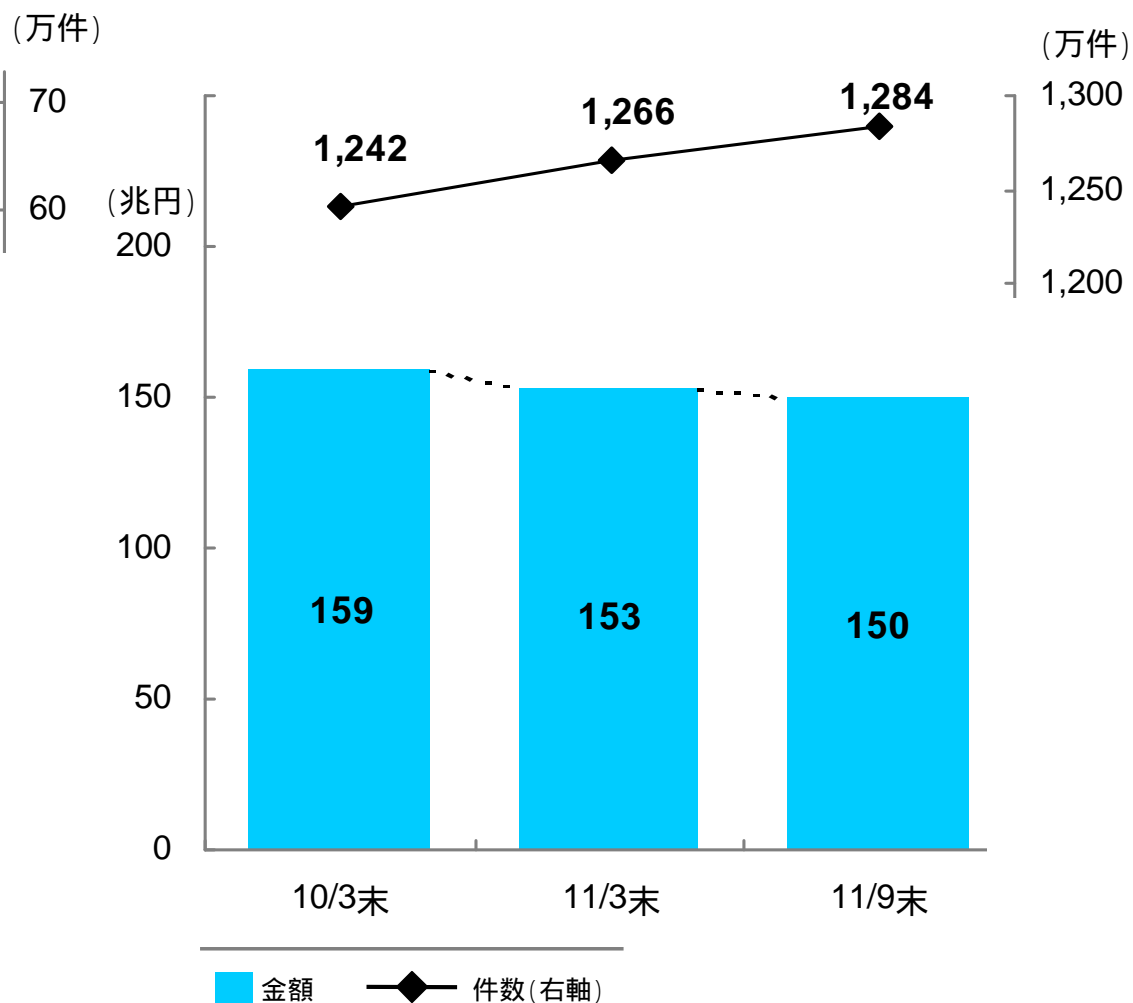
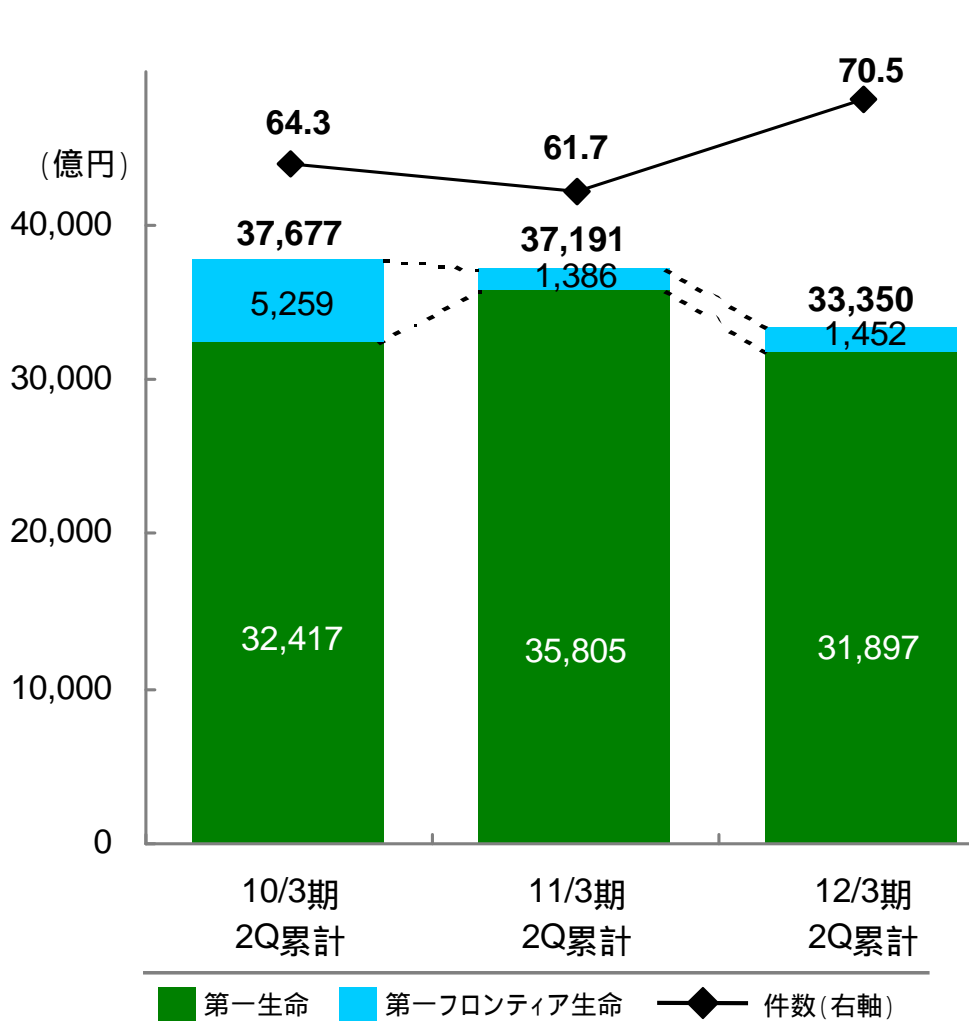
	取組概要	効果
事務 オペレーション	事務の最適化・効率化 ・事務集中部門での製造業アプローチを活用した事務品質と生産性の同時追求 ・生産性向上に向けた事務フロー改革 事務集中 ・支社事務の本社集中による効率化	固定給人件費  物件費
業務 フォーメーション	本社・支社の組織・人員の効率化 お客さま接点への人財シフト	固定給人件費  営業力強化
オフィス インフラ	営業効率を重視した店舗政策の構築 ・大規模ショッピングモールへの営業オフィス移転トライアル実施 コスト効率を重視したオフィスの移転、賃料削減、売却等の検討・実行	インフラ費用削減
ワーク スタイル	付加価値の高い仕事、内向き 外向きの仕事に向けたワークスタイルの変革 ・時間生産性変革 ・知的生産性変革	物件費
コスト マインド	従業員一人ひとりの意識・行動変革 ・インセンティブ策設定 ・各種指標の見える化推進 ・新規物件費削減取組	新規施策  ES向上

**第一生命**

契約高の動向(個人保険・個人年金保険)

新契約高<sup>(1)</sup>

保有契約高<sup>(1)</sup>

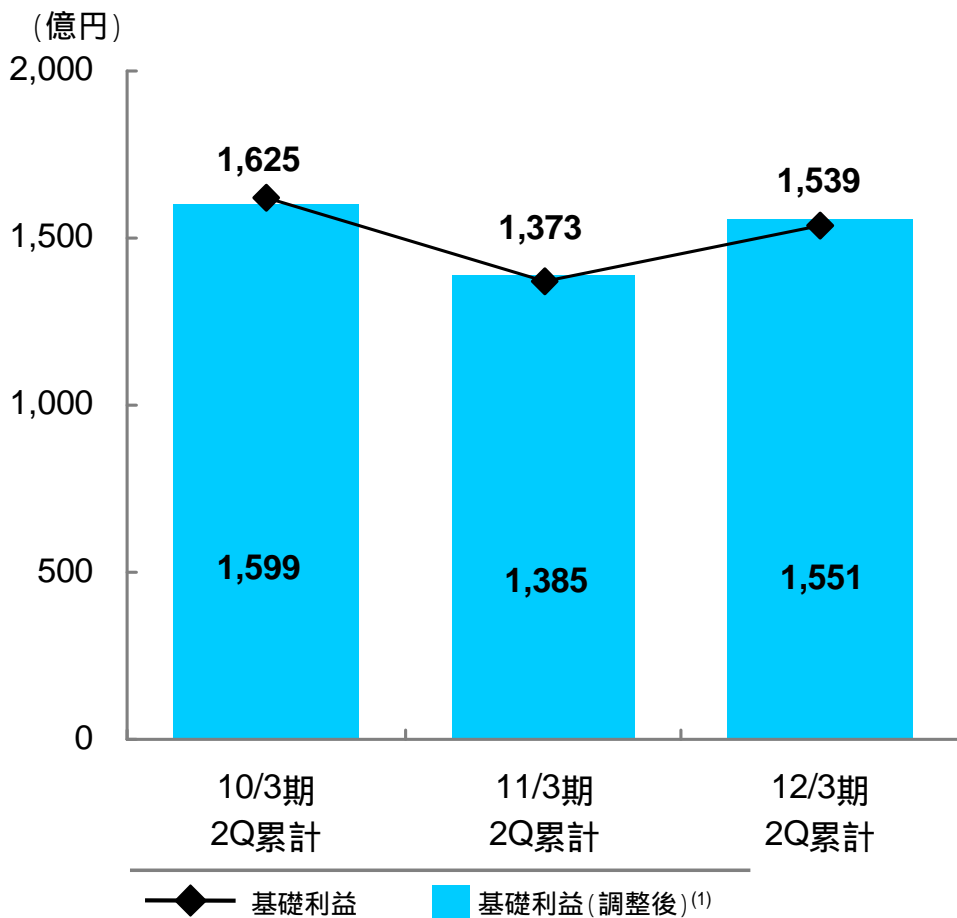


(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

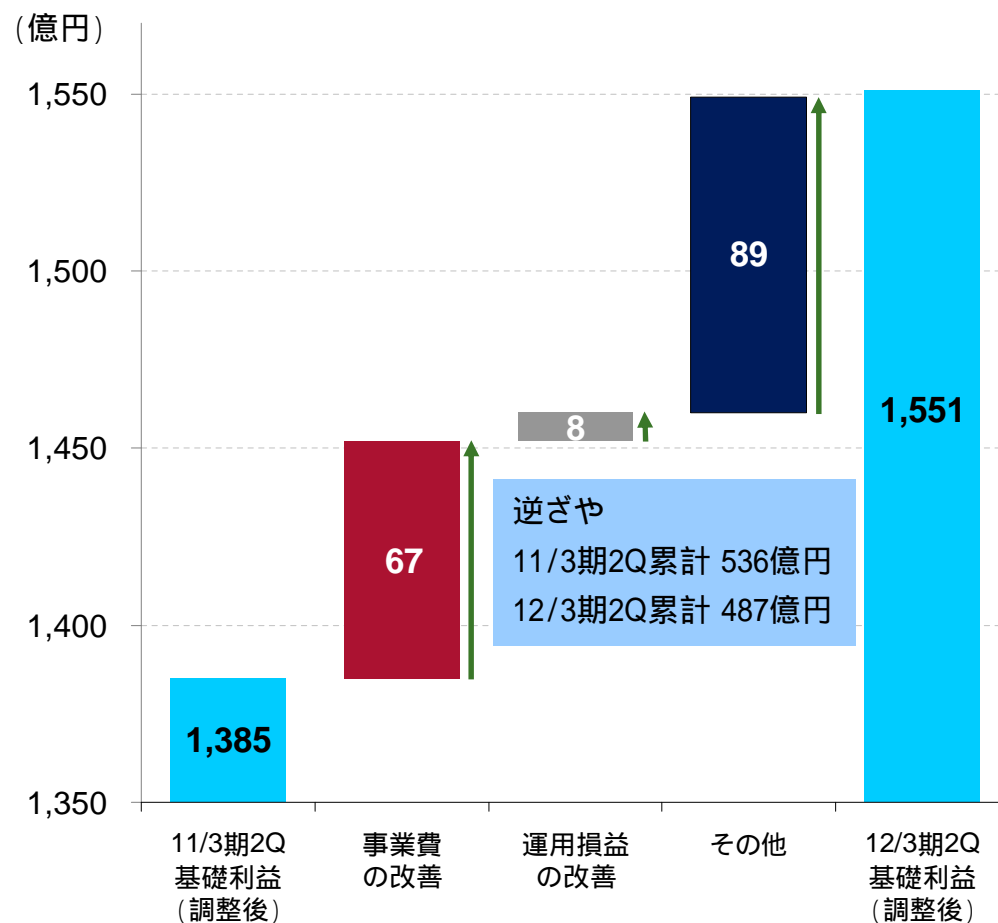
**第一生命**

**第一生命(単体)基礎利益**

**基礎利益**



**基礎利益(調整後)の変動要因<sup>(1)</sup>**



(1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 + 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額

## 第一生命

## 第一生命(単体)財務諸表

損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>

	11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計	増減
経常収益	20,943	22,483	+1,539
保険料等収入	15,017	16,000	+982
資産運用収益	4,563	4,923	+359
うち利息・配当金等収入	3,383	3,428	+45
うち有価証券売却益	1,016	1,463	+446
うち金融派生商品収益	150	2	148
その他経常収益	1,362	1,559	+196
経常費用	19,881	21,722	+1,840
うち保険金等支払金	12,236	12,212	24
うち責任準備金等繰入額	1,635	2,385	+750
うち資産運用費用	1,908	2,879	+970
うち有価証券売却損	618	569	48
うち有価証券評価損	68	851	+782
うち特別勘定資産運用損	756	896	+140
うち事業費	2,102	2,035	67
経常利益	1,062	761	300
特別利益	38	4	34
特別損失	144	296	+152
契約者配当準備金繰入額	412	347	64
税引前中間純利益	544	121	422
法人税等合計	202	59	142
中間純利益	341	61	279

## 貸借対照表(要約)

	11/3末	11/9末	増減
資産の部合計	308,696	309,010	+313
うち現預金・コール	4,671	4,967	+295
うち買入金銭債権	2,911	2,914	+3
うち有価証券	242,945	243,624	+679
うち貸付金	36,274	34,546	1,728
うち有形固定資産	12,958	12,619	338
うち繰延税金資産	4,751	4,851	+99
負債の部合計	301,032	301,868	+836
うち保険契約準備金	281,908	283,765	+1,856
うち責任準備金	275,895	278,232	+2,337
うち危険準備金	5,020	5,110	+90
うち退職給付引当金	4,183	4,309	+126
うち価格変動準備金	804	804	-
純資産の部合計	7,664	7,141	522
うち株主資本合計	5,928	6,009	+81
うち評価・換算差額等合計	1,736	1,130	605
うちその他有価証券評価差額金	2,375	1,950	425
うち土地再評価差額金	651	816	164

(1) 特別勘定資産運用損は、責任準備金の戻入で相殺されるため、経常利益に影響するものではありません



## 第一生命

## 第一フロンティア生命財務諸表

## 損益計算書(要約)

(億円)

	11/3期 2Q累計	12/3期 2Q累計	増減
経常収益	1,666	1,678	+11
うち保険料等収入	1,616	1,485	130
うち資産運用収益	50	192	+142
経常費用	1,731	1,898	+166
うち保険金等支払金	396	457	+60
うち責任準備金等繰入額	1,081	836	244
うち資産運用費用	187	529	+342
うち事業費	61	70	+9
経常利益(は損失)	64	220	155
特別損益	2	0	3
税引前中間純利益(は損失)	61	220	159
法人税等合計	0	0	+0
中間純利益(は損失)	61	220	159

## 貸借対照表(要約)

(億円)

	11/3末	11/9末	増減
資産の部合計	15,667	16,384	+716
うち現預金・コール	239	212	27
うち有価証券	14,554	15,194	+640
負債の部合計	14,500	15,420	+920
うち保険契約準備金	14,430	15,266	+836
うち責任準備金	14,419	15,255	+835
うち危険準備金	364	380	+16
純資産の部合計	1,167	963	203
うち株主資本合計	1,153	932	220
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	696	917	220

## 第一生命

## 豪TAL財務諸表

損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>

(百万豪ドル)

	10年 4~9月 <sup>(2)</sup>	11年 4~9月	増減
経常収益	829	1,095	+266
保険料等収入	653	818	+165
資産運用収益	23	13	10
その他経常収益	152	263	+111
経常費用	725	994	+268
保険金等支払金	423	550	+127
責任準備金等繰入額	69	72	+2
資産運用費用	10	106	+95
事業費	192	227	+35
その他経常費用	30	37	+7
経常利益	103	101	2
特別損失	-	2	+2
法人税等	44	35	9
中間純利益	59	63	+4
修正利益 (Underlying profit)	52	52	+0

貸借対照表(要約)<sup>(1)</sup>

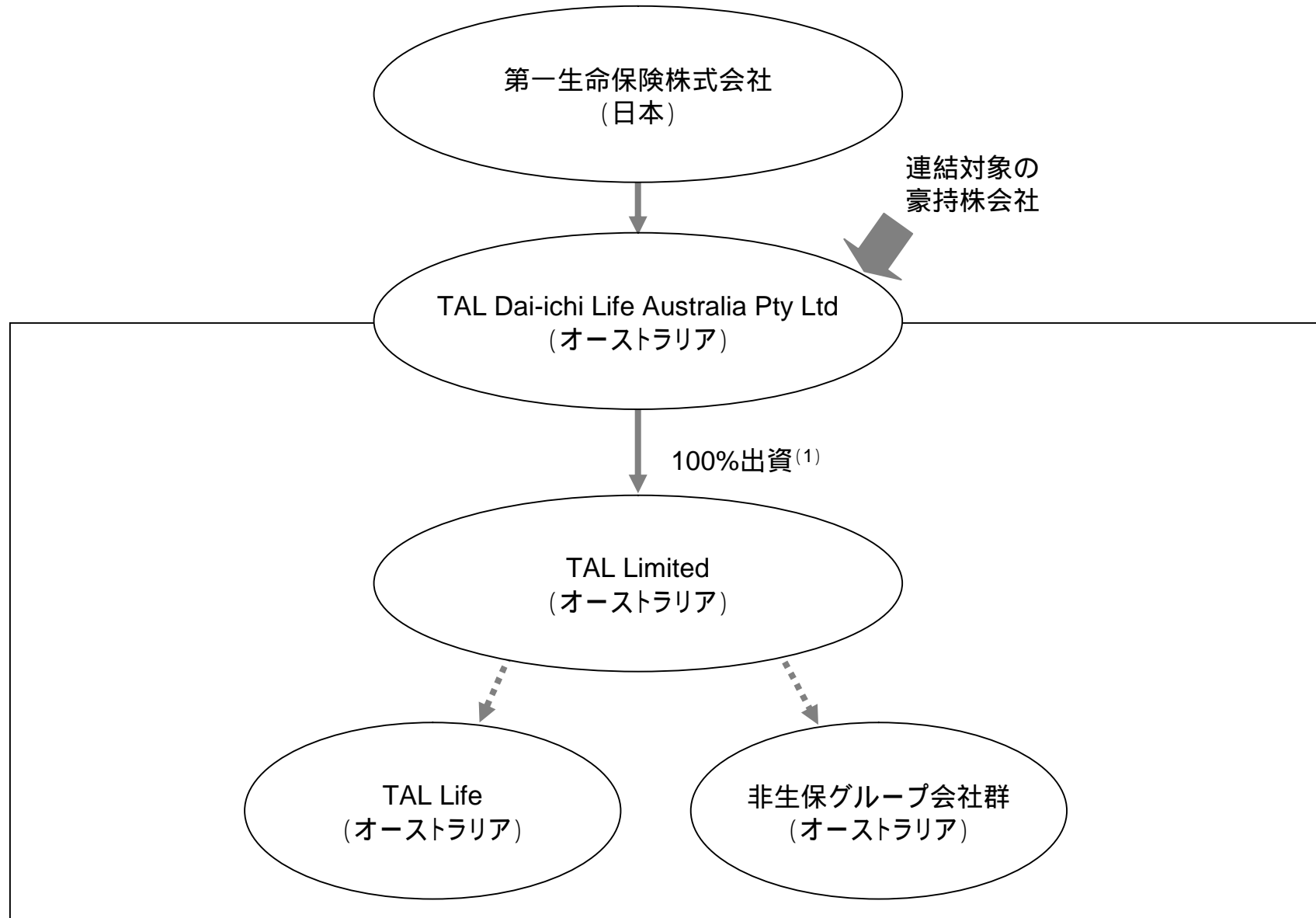
(百万豪ドル)

	11/4始	11/9末	増減
資産の部合計	4,989	4,862	126
うち現金・預貯金	264	267	+2
うち有価証券	2,696	2,551	145
うち無形固定資産	1,331	1,311	19
うちのれん	785	783	2
うちその他の無形固定資産	529	515	13
うちその他資産	525	547	+22
負債の部合計	3,358	3,168	190
保険契約準備金	2,384	2,221	162
再保険借	173	184	+11
その他負債	612	578	34
繰延税金負債	188	184	3
純資産の部合計	1,630	1,694	+63
株主資本合計	1,630	1,694	+63
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	-	63	+63

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

(2) 試算値

## 豪TALに係る出資スキーム



(1) TAL Dai-ichi Life Group Pty Ltdを通じた100%出資

第一生命

金融市場への感応度(2011年9月末)

	感応度 <sup>(1)(2)</sup>	含み損益ゼロ水準 <sup>(2)(3)</sup>
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 2,200億円(2,200億円)の増減	日経平均株価 ¥8,200 (¥8,400)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 1,900億円(1,600億円)の増減	10年国債利回り 1.4% (1.5%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 220億円(200億円)の増減	ドル/円 \$1 = ¥86 (¥87)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) ( )の数値は2011年3月末の水準

(3) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準

## 第一生命

### 免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

2012年3月期第2四半期 決算記者会見資料

契約の状況等(第一生命と第一フロンティア生命の合算値)

		2011年9月期		11年3月期	10年9月期	
		11/3期比	10/9期比			
新契約年換算保険料(合算値)	(百万円)	81,131	-	+ 5.4	151,412	76,972
うち第一生命分	(百万円)	62,963	-	+ 1.6	128,131	61,977
うち第三分野	(百万円)	21,396	-	+ 17.6	42,501	18,190
保有契約年換算保険料(合算値)	(百万円)	2,174,056	+ 0.6	+ 0.7	2,161,819	2,158,618
うち第一生命分	(百万円)	2,011,033	0.1	0.3	2,013,812	2,017,022
うち第三分野	(百万円)	511,857	+ 1.0	+ 2.6	506,671	498,696
保険料等収入(合算値)	(百万円)	1,748,576	-	+ 5.1	3,308,278	1,663,375
うち個人保険分野	(百万円)	1,198,935	-	+ 6.3	2,251,940	1,128,155
うち団体保険分野	(百万円)	505,871	-	+ 3.5	964,581	488,997
保険料等収入(第一生命分)	(百万円)	1,600,033	-	+ 6.5	3,056,555	1,501,746
うち個人保険分野	(百万円)	1,071,690	-	+ 8.3	2,045,312	989,755
うち団体保険分野	(百万円)	505,871	-	+ 3.5	964,581	488,997
新契約高(合算値)	(百万円)	3,335,046	-	10.3	7,469,517	3,719,160
うち第一生命分	(百万円)	3,189,780	-	10.9	7,260,144	3,580,530
保有契約高(合算値)	(百万円)	150,249,840	1.9	3.8	153,155,104	156,217,194
うち第一生命分	(百万円)	148,701,992	2.0	4.0	151,718,951	154,829,908
解約・失効高(合算値)	(百万円)	3,557,803	-	1.7	7,380,771	3,620,203
うち第一生命分	(百万円)	3,545,235	-	1.8	7,358,429	3,609,505
解約・失効率(合算値)	(%)	2.32	-	-	4.64	2.28
うち第一生命分	(%)	2.34	-	-	4.66	2.29

保険料等収入以外は個人保険+個人年金保険

3月期比、9月期比は増減比率

年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)

保険料収入のうち個人保険分野は個人保険+個人年金、団体保険分野は団体保険+団体年金の合計保険料(再保険料収入は含まない)

解約・失効は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出、主契約が継続している「減額」・「特約解約」を除く

[参考] 連結損益計算書における保険料等収入は1,807,604百万円(前年同期比+8.6%)

対象となるのは、第一生命、第一フロンティア生命、TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd、第一生命ベトナムの4社

資産の状況等

		2011年9月末		11年3月末	10年9月末	
		11/3末比	10/9末比			
総資産	(百万円)	30,901,058	+ 0.1	+ 0.8	30,869,661	30,667,565
実質純資産額	(億円)	33,571	+ 9.5	11.3	30,668	37,831
実質純資産額/一般勘定資産	(%)	11.2	-	-	10.3	12.8
ソルベンシー・マージン比率	(%)	972.4	11.5	50.1	983.9	1,022.5
新基準によるソルベンシー・マージン比率	(%)	559.9	+ 12.2	-	547.7	-

第一生命の実績を掲載

3月末比、9月末比は増減比率(ソルベンシー・マージン比率は増減ポイント)

基礎利益・逆ざや

		2011年9月期		11年3月期	10年9月期	
		10/9期増減額	10/9期増減率			
基礎利益(第一生命)	(百万円)	153,957	+16,579	+ 12.1	275,921	137,378
基礎利益(第一フロンティア生命)	(百万円)	37,453	28,097	+ 300.3	2,373	9,356
基礎利益(第一、第一フロンティア合算値)	(百万円)	116,504	11,517	9.0	273,548	128,022

合算値は第一生命、第一フロンティア生命の単純和を記載

		2012年3月期の予想	2011年3月期の実額
逆ざや額(正值の場合は順ざや額)	(億円)	横ばいの見込み	903

第一生命の実績を掲載

基礎利益の内訳

(第一生命と第一フロンティア生命の合算値)

		2011年9月期			11年3月期	10年9月期
			10/9期増減額	10/9期増減率		
基礎利益	(百万円)	116,504	11,517	9.0	273,548	128,022
逆ざや額(正值の場合は順ざや額)	(百万円)	48,642	+5,012	9.3	90,210	53,655
最低保証に係る一般勘定責任準備金の繰入・戻入の影響	(百万円)	45,251	25,562	+129.8	20,428	19,688
保険関係損益	(百万円)	210,398	+9,032	+4.5	384,187	201,366

(第一生命単体)

		2011年9月期			11年3月期	10年9月期
			10/9期増減額	10/9期増減率		
基礎利益	(百万円)	153,957	+16,579	+12.1	275,921	137,378
逆ざや額(正值の場合は順ざや額)	(百万円)	48,726	+4,965	9.2	90,353	53,692
最低保証に係る一般勘定責任準備金の繰入・戻入の影響	(百万円)	1,146	+45	3.9	279	1,192
保険関係損益	(百万円)	203,831	+11,568	+6.0	366,554	192,263
うち危険差益	(百万円)	203,576	+14,208	+7.5	348,058	189,367

最低保証に係る一般勘定責任準備金とは、変額年金保険の最低保証リスクに対して、標準責任準備金制度の一環として積み立てているもの

最低保証に係る一般勘定責任準備金を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因に、また、最低保証に係る一般勘定責任準備金を戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になる

準備金

		2011年9月末			11年3月末	10年9月末
			11/3末比	10/9末比		
責任準備金(除く危険準備金)	(百万円)	27,312,196	+224,765	+364,918	27,087,430	26,947,278
うち一般勘定(除く危険準備金)	(百万円)	26,277,670	+347,310	+496,027	25,930,360	25,781,643
うち特別勘定(除く危険準備金)	(百万円)	1,034,526	122,544	131,108	1,157,070	1,165,634
価格変動準備金	(百万円)	80,453	-	42,000	80,453	122,453
危険準備金	(百万円)	511,093	+9,000	25,000	502,093	536,093
うち危険準備金	(百万円)	153,151	+11,929	6,548	141,222	159,699
うち危険準備金	(百万円)	199,147	2,519	12,745	201,666	211,893
うち危険準備金	(百万円)	10,233	1,288	1,374	11,521	11,607
うち危険準備金	(百万円)	148,560	+878	4,331	147,682	152,892
危険準備積立金	(百万円)	43,120	-	-	43,120	43,120
価格変動積立金	(百万円)	65,000	-	-	65,000	65,000

第一生命の実績を掲載

3月末比、9月末比は増減実額

含み損益

		2011年9月末			11年3月末	10年9月末
			11/3末比	10/9末比		
有価証券	(百万円)	836,756	+222,635	394,943	614,120	1,231,700
うち国内株式	(百万円)	107,212	198,460	96,154	305,672	203,367
うち国内債券	(百万円)	814,320	+430,458	134,877	383,862	949,197
うち外国証券	(百万円)	88,583	8,086	158,913	80,496	70,330
不動産	(百万円)	10,745	9,780	60,365	20,526	71,111
その他共計	(百万円)	849,538	+210,337	452,122	639,200	1,301,660

不動産の含み損益は国内不動産(含む借地権)を対象とし、再評価前の水準

3月末比、9月末比は増減実額

第一生命の実績を掲載

運用実績と計画

		上期実績	下期計画
国内株式	(百万円)	284,242	微減または減少
国内債券	(百万円)	1,600,775	増加
外国株等	(百万円)	222	横ばい
外国債券	(百万円)	1,105,741	横ばい
不動産	(百万円)	34,441	横ばい

第一生命の実績を掲載

資産含み損益がゼロになる水準

		2011年9月末時点
国内株式(日経平均)	(円)	約8,200円
国内株式(TOPIX)	(ポイント)	約710ポイント
国内債券	(%)	約1.4%程度
外国証券	(円)	約86円

株式は日経平均およびTOPIXにフル連動させ、株式の評価基準にあわせて算出  
 国内債券は10年新発国債利回り換算し、小数点第1位まで算出  
 外国証券はドル円換算にて算出  
 第一生命単体の水準を掲載

2012年3月期の業績見通し

		2012年3月期の予想
保険料等収入	(百万円)	若干の減少の見込み
基礎利益	(百万円)	2,700億円程度
保有契約高	(百万円)	減少の見込み
保有契約年換算保険料	(百万円)	横ばいの見込み

第一生命の業績見通しを掲載

銀行との資本持ち合いについて

銀行からの拠出(総額)

		2011年9月末
株式に対する拠出	(百万円)	89,834
劣後ローン等	(百万円)	100,000

株式に対する拠出は、都市銀行・地方銀行・信託銀行(信託勘定を除く)・信用金庫の保有する当社株式を9月末の時価で評価  
 劣後ローン等に、シンジケート・ローンによる拠出は含まない  
 第一生命の実績を掲載

銀行への拠出(総額)

		2011年9月末
保有している銀行株(時価総額)	(百万円)	298,576
劣後ローン等	(百万円)	1,373,055

銀行への拠出の保有している株式には、優先株を含む(各行・グループの海外現法への出資は除く)  
 銀行への拠出の劣後ローン等は、劣後ローン、劣後債及び優先出資証券  
 第一生命の実績を掲載

職員数

		2011年9月末			11年3月末	10年9月末
			11/3末比	10/9末比		
営業職員	(人)	44,089	+ 1.3	+ 0.1	43,527	44,024
内勤職員	(人)	13,483	+ 0.8	2.4	13,381	13,820

3月末比、9月末比は増減比率

職員数(営業職員)には、当社と委任契約を締結かつ生命保険募集人登録をしているもののうち、その他補助的業務に従事するものを含む

銀行窓販の状況(第一生命と第一フロンティア生命の合算値)

		2011年9月期		11年3月期	10年9月期	
			10/9期比			
変額年金保険	新契約件数	(件)	7,592	68.0	34,300	23,713
	金額(収入保険料)	(百万円)	36,907	69.7	170,977	121,991
定額年金保険	新契約件数	(件)	19,669	+ 505.2	7,270	3,250
	金額(収入保険料)	(百万円)	87,468	+ 498.4	32,153	14,616

銀行窓販の対象となる金融機関に一般証券会社を含めて記載

9月期比は増減比率

		2011年9月期		11年3月期	10年9月期
			10/9期比		
一時払終身保険	新契約件数	(件)	181	-	150
	金額(収入保険料)	(百万円)	1,477	-	769

9月期比は増減比率

< 全面解禁商品 >	全面解禁商品の取扱いはない
------------	---------------



## その他質問項目(2011年9月)

## 東日本大震災に関する保険金・給付金等支払額見込み

保険金・給付金等支払額見込み	約163億円
----------------	--------

## 東日本大震災に関する影響および対応

## (1)当社の主な対応

1. 災害関係特約について保険金・給付金の全額支払い
2. 保険料の払込猶予期間を最長で平成23年12月まで延長
3. 保険金・給付金・契約者貸付等の簡易迅速なお支払い(必要書類の見直し、一部省略)
4. 災害救助法適用地域で被災されたご契約者の方々を対象として、新規契約者貸付に対する特別金利を適用(利息の減免)
5. 支社・本社窓口における現金支払い(50万円まで)
6. 本来、入院による治療が必要であったにもかかわらず、病院または診療所にご入院できないケースに関する特別取扱
7. 宮城県石巻市・気仙沼市、岩手県宮古市・釜石市・大船渡市等で、臨時窓口を設置(4月13日以降、随時)
8. 震災対応専用ダイヤル(コールセンター)の設置
9. 物的支援として、水・食料などを発送
10. 義援金の寄贈
11. お見舞いならびに震災専用ダイヤル告知のための広告掲載
12. お見舞い状ならびに特別取扱に関する説明文書の発信
13. 被災地域のお客さまへの営業職員及び本社派遣チームによるお見舞い訪問推進
14. 被災地域のお客さまへの安否確認コール
15. 被災地域のお客さまのご契約・お手続きに関する情報の一元管理(データベース化)
16. 安否確認ができなかったお客さまを捜索するためのウェブ検索等による情報収集活動(約400名体制)
17. 安否確認ができなかったお客さまへのダイレクトメールを通じた情報収集活動
18. 死亡者情報からの名寄せに基づく被災者の契約有無の確認と死亡が確認された場合の請求案内
19. 新卒採用活動の一部延期
20. 保険料払込猶予契約の保障継続のための特別対応

## (2)生命保険協会主導での主な対応

1. 災害地域生保契約照会制度に基づく被災者の契約有無の確認
2. 生命保険協会で共有化された生保各社の支払データに基づく契約有無の確認
3. 未成年者生保支援ネットワークの創設

## ユーロ圏一部諸国( 1)に対するエクスポージャー( 2)

		2011年9月末	
国債	(億円)	1,329	
国債以外のエクスポージャー	(億円)	274	
合計	(億円)	1,603	

1.ユーロ圏一部諸国:ギリシャ・アイルランド・イタリア・ポルトガル・スペイン

2.ユーロ圏一部諸国( 1)に対する投融資(貸付金、有価証券を対象とし、ファンドや証券化商品を通じた投融資は除く)の一般勘定合計額(貸借対照表価額)  
最終的なリスク帰着先がユーロ圏一部諸国( 1)に所在する投融資について計上

## 「不払い問題」に対する主な再発防止策(カッコ内はその金額)

## お支払いに関する情報提供のさらなるレベルアップ

・毎年契約者宛に送付している「生涯設計レポート」は、1契約につき4ページにわたり「契約内容」「給付内容」「保障額」「支払事由」を解説のうえ、請求漏れに関する注意メッセージやセルフチェック欄を掲載しているが、これに加えて平成22年度より「支払事由」のページに「保険金等の支払履歴」を掲載することで、注意喚起をさらにレベルアップ。具体的には、平成23年度に送付した「生涯設計レポート」に、過去(平成13年1月～同レポート作成日迄)にお支払いした入院・手術等に関する履歴を掲載するとともに、お客さまの失念等が考えられる事例を掲載。これらの取組みにより、毎年、「契約ごとの支払事由」、「過去の支払履歴」、「請求漏れに関する注意喚起メッセージ」等を確認いただけるようになった。さらに平成23年度からは、「支払履歴」についての掲載基準等の同一ページへの記載、入院保障に関する支払限度日数の表示などのレベルアップを実施している。

## 「支払業務改善推進プロジェクト」の取組み

・当社では、新たに請求漏れを発生させないように、請求案内の対象範囲の拡大等も実施しながら、支払管理態勢の整備(改善策の実施・見直し)に注力するとともに、過去にご請求いただいた契約に関する検証・対応を進めてきた。こうした中、お客さまが期待されるサービスの水準が一層高まってきていることを踏まえ、平成22年4月に、保険金部内に「支払業務改善推進プロジェクト」を立ち上げ、お客さま保護の観点から請求案内のさらなるレベルアップを進めている。

## 変額年金保険等の最低保証に係る一般勘定の責任準備金繰入・戻入の状況

		2011年9月期			
		11年3月期	10年9月期		
変額年金保険等の 最低保証に係る 一般勘定の責任 準備金繰入・戻入	第一生命	(億円)	11	2	11
	第一フロンティア生命	(億円)	441	201	184
	第一、第一フロンティア合算値	(億円)	452	204	196

繰入額についてはプラスで表示、戻入額についてはマイナスで表示